

# 多様な児童・生徒を チーム学校で支える

## 生徒指導

### ⑥ 中学校 課題への処方箋

#### 「生徒指導提要」改訂版の指針

「生徒指導の教科書」として活用されてきた「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂される。協力者会議の委員を務めた、日本学校心理学会理事長の石隈利紀・東京成徳大学教授に、改訂のポイントと今後の生徒指導の在り方について解説を寄せてもらった。

令和4年の「生徒指導提要」「改訂版」は、子どもや社会の変遷、法制度の改革に基き、「改訂版」で示された今後の生徒指導の指針を、お伝えしたい。

#### 一人一人の子どもの人権と意見を尊重する

「改訂版」では、子ども自身の権利の理解を重視している。今年6月公布の「子ども基本法」を取り上げ、全員の権利の理解、意見表明として受けることなどを明記した。保護者に求められる。子どもが個人として尊重されることなどを明記した。

#### 多様な子ども個性を発見し、認め、良さを伸ばす

「改訂版」では、生徒指導の目的として、子ども一人一人の個性の発見と良さを伸ばすこと、可能性の伸長を挙げた。一人の個性の発見と良さを伸ばすこと、可能性の伸長を挙げた。



石隈利紀

東京成徳大学教授  
日本学校心理学会理事長

子どもの特性であり、発達の状態である。さらに広義の「個性」は、障害、性的指向性自認、家庭の状況、文化にも関連して、差別的禁

#### 全ての生徒への生徒指導を基盤とした重層的支援

生徒指導は全ての生徒を対象として、生徒の教育ニーズに応じて行われる。これまでの「生徒指導提要」では、①全ての児童・生徒を対象とする成長を促す指導(学校の心理学的支援)②一部の児童・生徒を対象とした予防的指導(二次的指導)③特定の児童・生徒を対象とする課題解決的な指導(三次的指導)の3層構造であった。「改訂版」では、①全ての児童・生徒を対象とする成長を促す指導(学校の心理学的支援)②一部の児童・生徒を対象とした予防的指導(二次的指導)③特定の児童・生徒を対象とする課題解決的な指導(三次的指導)の3層構造を基盤として、重層的支援を構築することになった。

#### 教科の指導と生徒指導の一体化

授業は、全ての生徒を対象とした生徒指導の場となる。教科の指導と生徒指導を一体化した授業づくりは、生徒指導の四つの視点(主体的関与・個別化・安全・安心)を踏まえて行われる。

#### チーム学校による生徒指導

チーム学校では、教師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、学校内の教職員のチームの強化と学校・家庭・地域の連携の強化を図る。チーム学校で生徒指導を行うことを強調している。

①機動的連携型支援  
②校内連携型支援  
③ネットワーキング型支援

デジタルテキストさらなる改訂へ

「改訂版」の大きな特徴は、八並光俊座長(日本学校心理学会会長)の「デジタルテキスト」によるデジタルテキストである。全ての教職員が活用できる。また、児童・生徒の意見に応じて、さらなる改訂版Ver.2を作成できる。デジタルテキストだからできる。

支えるのは、管理職のリーダーシップによるマネジメントである。全ての児童・生徒の発達を全ての大人が支えるのは、管理職のリーダーシップによるマネジメントである。全ての児童・生徒の発達を全ての大人が支えるのは、管理職のリーダーシップによるマネジメントである。...